

閉 会 挨拶

中村幸一郎 (一財) エネルギー総合工学研究所
専務理事

本日は皆様、師走のお忙しい中、ご参加ご視聴いただき、また種々ご質問いただき、大変ありがとうございました。

近頃、「脱炭素ショック」、「エネルギー危機」と言う言葉が耳目を集めております。カーボンニュートラルの目標とエネルギー安定供給をどのように両立させるのか、そのことの難しさや種々の思惑から出てくる、いろいろな課題や問題を捉えての言葉だと思えます。

そのような指摘や状況に対応していく上でも、やはり、移行期での具体的な道筋、そして、2030年を経て50年に向けての合理的な道筋を示していくことが非常に重要ではないかと思っております。今日の説明でも、既存インフラの最大限の活用、ネガティブエミッションについての2030年頃からの大規模利用、という報告がありました。具体性や合理性が求められる流れでの話ではないかと理解しております。

そういった道筋を示して行くに当たっては、モデルシミュレーションのようなマクロ的・バックキャスト的なアプローチとエネルギー源毎、需要分野毎に、現在と将来展望を踏まえたミクロ的・フォアキャスト的なアプローチを両用することが大切だと思っております。当然のことながら結果にはギャップが出てまいります。

今日のシンポジウムでは「総合工学的な視点から」としておりましたが、現状、各分野ごとの束ねであり、我々としては、これに有機的なつながりを持たせつつ、今申し上げた、ギャップの解析や検討にチャレンジしていくことが必要でないかと考えております。

どうか引き続き、皆様方のご指導ご支援をお願い申し上げます。

以上を持ちまして本日のシンポジウム、閉会とさせていただきます。本シンポジウムが皆様のご参考になったことを願っております。本日は誠にありがとうございました。